

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

甘く考えたいはいけない

私達大人はSNSを利用する

にあたり、自利心等のブレーキが機能していると思うのですが、子どもと母は違うのです。スマホやタブレットを際限なく使ってしまう。大人が取り上げようものならキレる子ども達。挙句の果て SNS 関連のトラブルに巻き込まれる子ども達…。スマホやタブレットはあって当然の前ではない物であることを自覚してほしいものです。そういった考え方の甘さがトラブルに巻き込まれる原因となっているような気がします。

先日、福岡県でのニュースに特
殊詐欺の「受け子」として犯罪に
加担してしまった中学生の事件
が紹介されていました。これは対
岸の火事ではありません。現代社
会において、コンピュータネット
という視点から個人が行動をコン
トロールし、高めていく必要があ
るように思います。というのも
子ども達はSNSの利用について
はあっという間に大人を追い
越してしまっているから。

子ども達の身近にいるお手本は私達人です。私たちが自身がコンプライアンス意識を高め、社会生活に参加していくようにしたいものです。

話題提供 「子供は大人を見ている」

数年前 新聞の教育コーナーに、「子供は大人を見ている」というタイトルで、天竺市の中学校の先生からの投稿が掲載されていました。その中で印象に残ったところを紹介します。国々んの中の話題にして頂けるなら幸いです。次の文章です。

「子供は、好奇心旺盛だ。その目線は大人にも向けられ、大人が楽しいと思うことは真似をする。今も昔も子供の本質は変わらないと思う。私たち大人（保護者）がやっていることを、子供は真似るといふことだ。ということば、良きにつけ悪きにつけ、大人の行動が影響するということだ。更に、『家庭では誰と話すの？』人間関係の土台で悩んでいる子供に家庭の様子を尋ねてみる。『誰と話してない？』との答えが、淡々と返す。」

ってることがある。親や兄弟がいても、それがスマートフォンやパソコンの画面を見つめ、インターネットやSNSに夢中なのだという。……

（中略）孤立し、自分の世界観だけに価値を
 いだす子供達がいる。私たち教師はもちろ
 ん、親として大人として、子供達と共にする時間を
 過ごし、子供達に何を与えてどんな体験をさせ
 なければならぬのか、自らに問いかけたい。そ
 うすれば、子供に向けるまなざしが強く、温か
 いものに変わりつつあるはずだ。」

そう言へば数年前、お盆の宴席で親戚たちが問いかけてきました。「小学校や中学校ではスマホを持つことを許可しているの？」学校としては許可していませんと告げ、その効用と落とし穴について話して、更にこの話をあるエキスとされていました。「スマホでもPCでもゲームでも、親がのめり込むと子どものめり込む、しかも悪いのめり込み方をすることが多い。ゲームは親に隠れて夜中にゲームをすることもあるよ。そしてPCならともかく、スマホは大人が知らない使い方を子供は知っているからね。ある日突然悪いことが起きるかもしれないよ。」¹⁴携帯やスマホ、PCについて、ご家庭ではどのような環境にありまなか。

シリーズ「自分を語る」#25

私が大学を卒業したのは平成元年3月の事です。卒業後の10日ほどは、ボーっとして過ごしました。臨探の希望を出していたので、それがあかどろかが気になって仕方ない時期でもありました。

4月1日 当時は煙草も吸っていて、何気なく煙草を取り出し、火を点けようとしたが、ライターがぬけてしまった。「ムンビに誘って百田中を誘う」と「あと3円お願いします。」と言われ、面喰ったことを思い出します。そこで、平成元年度スタートの日は、消費税導入の日でした。

平成元年度スタートは私にとっては、本当にほうき苦いものでした。これから1年間、また親に世話になるのか、情けなさに押し潰されそうでした。両親は氣を遣って、「ビール飲むか?」とか、「お金は持つてるわね!」と言ってくれました。それが逆に自分の情けなさを助長するようで、苦しかったのを覚えています。中々ありがとつと泰平に言えませんでしたか、お金を無言で貰って、映画を数本観に行ったことを覚えています。映画のタイトルは忘れてしまいましたか?..

4月5日 念願の知らせが来ました。熊本市教育委員会からの臨探決定の通知です。「至急、写真を持って教育委員会に出頭してください。」とのことでした。何が何だか分かりませんが、写真を撮って委員会に行きました。そこで告げられたのは、熊本市立龍田小学校への勤務でした。嬉しすぎて卒倒してしまいました。

次の日、早速龍田小学校へ挨拶に向かいました。校長先生から「15年生の担任をお願いします。」と言われ、いきなり担任々と露きましましたが、それでも嬉しかったですとを思い出します。あの時、先生と言われることに妙な満足感を感じたことを覚えております。

「これから夏までは、毎日の業務と採用試験の準備、色でした。と言いますか、他の先生方や子どもも、保護者の方々が気を遣ってくれました。そこで私は、初任給で通商教育の教員採用試験合格講座を受講することにしました。でも、残りの給料は足りませんでした。また、家にもお金を入れるようにしました。でも、貯金も何もせず、只、遣いっぱなしでした。ね。悪いものには遣っていないと思うのだから。」

この時期は、自分でもよく勉強したと思います。1日3時間はぐっすり眠って、もいや眠っていてもテキストを片手にしています。ただ机に座っているだけでいい日もありました。

私は理系の学習が苦手で、数学や物理は苦勞しました。でも勉強で一番苦勞したのはピアノでしたね。左右の指を別々に動かすこと等無かったですから、腕の筋肉が釣ることもしばしばで、とにかく大変でした。学生時代は単位を取るためにバイエル教則本を使って、60番まで弾きましたが、1度目の採用試験ではその字ひは全く活かされず、当日は涙苦茶茶でした。とつとつ楽譜は読めず、教師生活に入っても音楽の授業は酷いものでしたね。楽譜が弾ける人、楽譜が読める人には懂れます。(こへ)